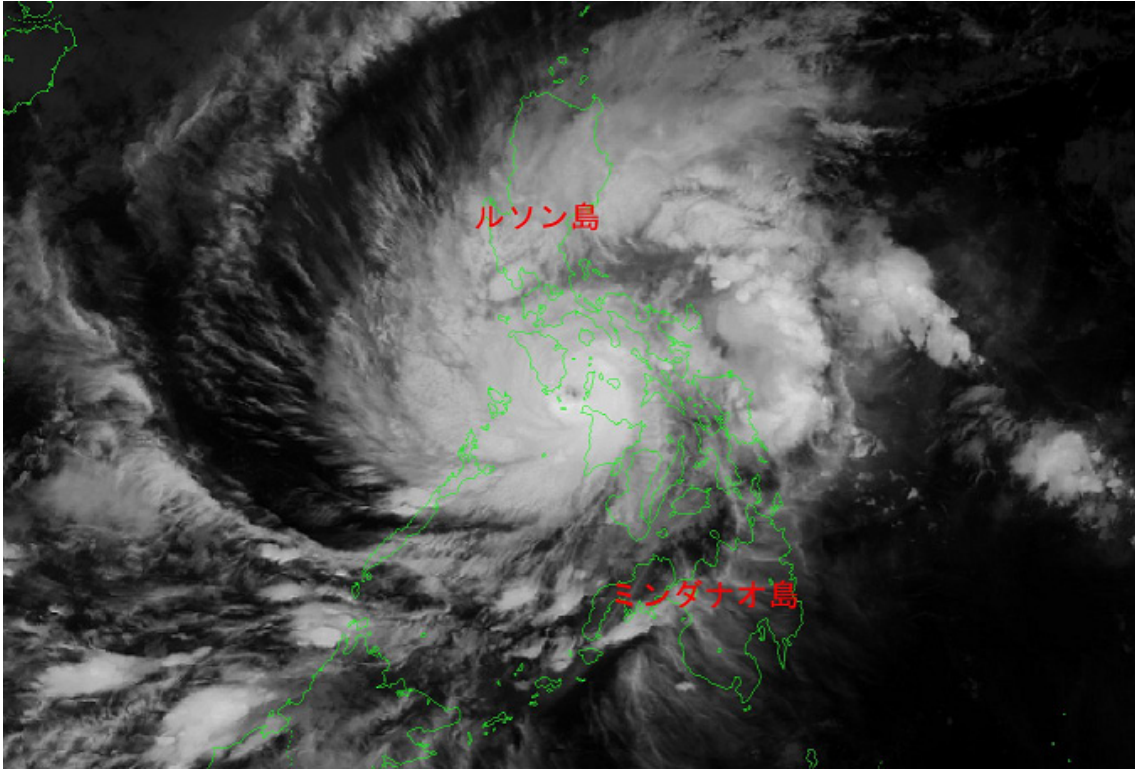


今月の気象衛星画像 (2006年12月)



2006年12月10日9時の赤外画像

フィリピンを通過中に眼ができた台風

熱帯の海上では海面水温が高く、上昇気流によって発生した積乱雲がまとまって渦を形成し、渦の中心付近の気圧が下がり、台風が発生する。台風は水蒸気をエネルギー源として発達するため、海面水温が低い海域に進んだり、陸地に上陸すると、台風に供給される水蒸気が少なくなり衰弱する。

今回、紹介する台風22号(ウトア)はフィリピン諸島を横断中に発達し、眼が形成された例である。今年の台風は19号から22号まで4つ連続して同諸島を横断した。これらの台風の多くが、フィリピンの東海上で眼が形成され、同諸島を横断すると衰弱し眼が消滅した。

12月8日3時フィリピンの東海上で発生した台風22号は、フィリピン諸島を横断中10日9時には眼が形成され955hPaまで発達した。その後、14日15時には衰弱して南シナ海で熱帯低気圧になった。同諸島には、北部にルソン島、南部にはミンダナオ島という大きな島がある。台風が横断した中央部は小さな島々から成り、台風22号が通過した10日の同海域の海面水温は28~29℃と高かった。このため、台風は陸地等の影響をほとんど受けず、海面から水蒸気を十分供給され発達し、眼が形成されたものと思われる。

この台風22号の影響で5人が死亡、20人が行方不明となる大きな被害が発生した。

(気象衛星センター)